

Safety & Tomorrow 201



新着情報

- 性能評価状況(令和3年12月1日から令和4年1月31日)を掲載しました。
http://www.khk-syoubou.or.jp/pkobo_news/upload/68-Olink_file.pdf
- 試験確認状況(令和3年12月1日から令和4年1月31日)を掲載しました。
http://www.khk-syoubou.or.jp/pkobo_news/upload/67-Olink_file.pdf
- 令和3年度視聴覚教材「安心・安全なガソリンスタンド業務のために」を制作しました。(令和4年3月3日)
<http://www.khk-syoubou.or.jp/guide/video.html>



危険物保安技術協会
Hazardous Materials Safety Techniques Association





情報技術とひとの共存について _____ 1
横浜国立大学 笠井 尚哉



●危険物関係講演会等への講師派遣について _____ 2
企画部
●委託調査研究・共同研究について _____ 3
企画部
●視聴覚教材の製作について _____ 4
企画部
●危険物施設等の保安に関する診断について _____ 5
企画部



石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテストの取り組みについて _____ 6
株式会社KSP大黒神奈川共同防災センター 代表取締役 小松崎 勝美



「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」について _____ 10
消防庁特殊災害室



一般公開のお知らせ
消防研究センター、消防大学校、日本消防検定協会、 _____ 15
一般財団法人 消防防災科学センター



第57回 自信と過信 _____ 18



巻頭言

情報技術とひとの共存について

横浜国立大学
笠井 尚哉

経済産業省のホームページに掲載されている資料では国内のエチレンセンターの稼働年数は2022年に半数以上が50年以上経過し、2024年には最も新しい設備でも30年以上経過することが示されています。さらに、総務省のホームページに掲載されている資料において、危険物施設数は平成6年の560,790件から令和2年には396,457件に29%程度減少していますが、事故件数は平成6年の287件から令和2年の562件と2倍程度に増加しています。また、多くの資料から1995年に生産年齢人口が減少傾向に転じている様子が確認できます。このように各種の設備が高経年化している中、生産年齢人口が減少しているという状況において現在までに蓄えられた社会・産業資本を効率的に使用する維持管理技術の重要性が増しています。そのような背景のもと、多くの学協会の研究発表会ではAI、IoT、DX(デジタルトランスフォーメーション)などを用いた維持管理技術の研究、筆者の専門領域では例えば、腐食予測などの材料損傷や非破壊検査データへの適用例の研究が多数見受けられます。経済産業省のスーパー認定事業者制度でも認定の要件の一つとしてIoT、ビッグデータ等の新技術の導入が述べられるとともに、スマート保安という用語が日常的に使用されるようになり、国と産業界の情報技術への期待が大変大きいことがわかります。生産年齢人口の減少が著しい我が国において省力化が期待できるAI、IoT、DX技術の必要性和重要性は理解できます。また、それらを適切に使用すれば人間では見逃すような初期の兆候を見つけ、事故を未然に防ぐことが可能となります。さらに、温暖化に伴い自然災害が激甚化してきており、従来より厳しくなった降水量による洪水、強風などの外部要因が設備に襲い掛かる状況において、安全性の確保及び更なる安全性の向上も期待できます。しかしながら、杞憂かも知れませんが、これから上記の情報技術の適用が産業界において進められていく過程において、ひとの判断が大きな事故の回避に重大な貢献をする場合がある気がしてなりません。例えば、数年前ですがある世界的な情報技術会社のAIは学習方法が適切でなかったため、不適切な発言が多くなり公開後数時間で運用が停止されたようです。2021年にはアメリカ最大の石油パイプラインがサイバー攻撃により停止を余儀なくされました。

産業界において大小の事故の回避に情報技術が大変大きな役割を担うことは間違いのないことであり、情報技術への投資に注目しがちだと思いますが、同時に情報技術を使いこなす我々人間側の技術者への従来と同程度又はそれ以上の投資、教育、訓練の充実も継続的に実施していくことが肝要だと思っております。



★ 業務紹介 ★

危険物関係講演会等への講師派遣について

企画部

例年多くの消防本部や消防学校、関係団体等が主催される講習会等へ当協会職員を派遣させて頂いております。令和3年度におきましても、多くのご依頼を頂いておりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、講習会が中止となった案件もありました。

このような状況が改善され、以前のような講演会等の開催が可能となりましたら、引き続き講師の派遣をさせていただきます。

1 主な講演テーマ

次のとおり、当協会の業務や危険物全般に関することとし、ご相談に応じます。

(1) 当協会の業務について

- 危険物施設等の保安に関する診断
- 性能評価（地下貯蔵タンク及びタンク室等の構造・設備に係る評価、単独荷卸しに係る仕組みの評価など）
- 試験確認（運搬容器、少量危険物タンク、S Fタンク、固定給油・注油設備など）

(2) 危険物関係法令について

(3) 危険物に係る事故事例について

2 経費等

- (1) 経 費：交通費等の経費についてはご相談ください。
- (2) 対象者数：原則として20名以上とします。

3 最近の主な講師派遣実績

各種講演会や研修会等に講師を派遣させて頂きました。

消防庁危険物保安室「危険物事故防止講習会」、消防大学校「危険物科」、経済産業省経済産業研修所「アルコール検査官研修」、他

【Web 講習】感染予防の対策として、Web 講習とした案件もありました。

新潟県防災局消防課・新潟県危険物安全協会「危険物実務研修会」、一般社団法人日本高圧力技術協会「HPI セミナー」、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構「設備の老朽化に対する点検の新技术適用と基地に対する保安診断を受けて」 他

【お問い合わせ先】

危険物保安技術協会 企画部企画課

電話 03-3436-2353 / FAX 03-3436-2251

E-mail kikaku@khk-syoubou.or.jp



★ 業務紹介 ★

委託調査研究・共同研究について

企画部

当協会では、広く業界団体、事業者の皆様からの依頼により調査研究、共同研究を行っています。

委託調査研究としては、

- ① 業界団体として新たな基準作りが必要な事案
- ② 規制緩和等に向けた基礎調査
- ③ 社内教育に必要な教材 (e-ラーニングシステム、視聴覚教材やテキスト) の製作及び監修 (写真1)
- ④ 民間企業から受託した新技術に関する調査・研究 (写真2) など

公正中立な第三者機関として各種調査や実験等を行い、必要に応じて学識経験者等を交えた委員会にて検討することも可能です。

また、重大事故発生時の第三者機関による事故調査委員会の事務局などご相談により対応をいたします。(今後の当協会の事業推進に関連のあるテーマ・内容であれば共同研究などの対応もいたします。)

各事業者の皆様において危険物に関する様々な調査及び実験等の要望がございましたら、お気軽にご連絡ください。



写真1 令和3年度に製作した視聴覚教材



写真2 帝国繊維株式会社から受託

【お問い合わせ先】

危険物保安技術協会 企画部企画課

電話 03-3436-2353 / FAX 03-3436-2251

E-mail kikaku@khk-syoubou.or.jp



★ 業務紹介 ★

視聴覚教材の製作について

企画部

危険物保安技術協会では、給油取扱所の事故防止及び安全対策の向上を目的とした視聴覚教材（DVD）を製作しました。危険物の性質・性状、事故事例・災害対応などについて、実写映像、CG、イラストなどを用いて視覚的に学べるものとなっており、主に給油取扱所の従業員に向けた内容となっておりますが、従業員以外の方でも広く学べる内容となっております。

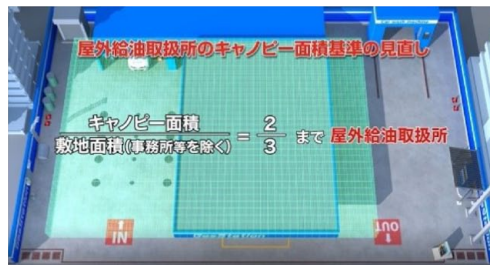
給油取扱所の構造・設備については、根拠となる法令を示しながら解説しており、近年行われた法令の改正や消防庁により示されている新たな形態の施設や機器についても紹介しています。

1 内容（映像時間：35分）

安心・安全なガソリンスタンド業務のために ～給油取扱所における事故防止対策～



DVD ジャケット



映像内容

2 リンク先（ダイジェスト版）

下記のページより、映像（ダイジェスト版）が視聴できます。

<http://www.khk-syoubou.or.jp/guide/video.html>

ご要望に応じて販売（DVD）も行っておりますので、ご希望される方はお気軽にご連絡ください。

【お問い合わせ先】

危険物保安技術協会 企画部企画課

電話 03-3436-2353 / FAX 03-3436-2251

E-mail kikaku@khk-syoubou.or.jp



★ 業務紹介 ★

危険物施設等の保安に関する診断について

企画部

危険物施設を保有する事業所の自主保安の向上及び事故防止に資することを目的とし、事業所の自主保安に対する取り組みについて、第三者機関として危険物施設や特定防災施設等の維持管理に関する状況を確認し、診断及び評価を行っています。

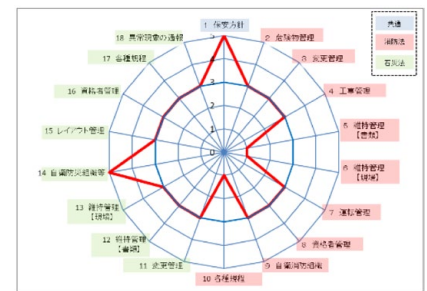
1 「危険物施設等の保安に関する診断」の内容

種類	診断内容
保安診断	自主保安体制の基本項目（全部、又は一部）について、診断及び評価を行います。
再発防止対策診断	事故の再発防止対策について、診断及び評価を行います。
特定保安診断	事業所の要望に応じた安全性の診断及び評価を行います。

2 「保安診断」の診断項目と評価

保安診断は、各事業所の保安方針、維持管理や運転管理の状況等について、危険物に関する専門知識を有した消防実務経験者により、書類（社内規程等）と現場の両面から診断・評価を行います。

評価結果は、18の診断項目（石油コンビナート区域外の事業所は10項目）について、5点法によりレーダーチャートで表し、自主保安の弱点を“見える化”します。また、改善の必要な事項があった場合には、その改善方法を提案します。



レーダーチャート化した保安診断の評価結果の例
※診断項目は選択できます。
※18項目以外でも要望に応じて診断項目に追加できます。

3 災害対応演習のご案内

ご要望に応じて、保安診断にプラスして、事業所の危機管理能力、保安・防災力の向上のための災害対応演習を実施します。

当協会ホームページでは、より詳細に「危険物施設等の保安に関する診断」について掲載しております。

リンク先はこちら

- 危険物施設等の保安に関する診断～出前研修（災害対応演習）も併せて実施できます～

http://www.khk-syoubou.or.jp/guide/dangerous_facilities.html

- 保安診断パンフレット

http://www.khk-syoubou.or.jp/pdf/guide/dangerous_facilities/hoansindan.pdf

貴社の自主保安の向上のために、当協会の「危険物施設等の保安に関する診断」をご活用下さい。

【お問い合わせ先】

危険物保安技術協会 企画部企画課

電話 03-3436-2353 / FAX 03-3436-2251

E-mail kikaku@khk-syoubou.or.jp



石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテストの取り組みについて

株式会社KSP大黒神奈川共同防災センター
代表取締役 小松崎 勝美

「令和3年度石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」が実施され、弊社が最優秀賞（総務大臣賞）を受賞させていただくことができました。

これもひとえに日頃から横浜市消防局の皆様のご指導、弊社の株主である構成事業所各社のご協力があったからこそ賜物と深く感謝申し上げます。

今回の技能コンテストの取り組みについてご報告をする前に、弊社について簡単にご案内させていただきます。

会社概要

弊社は、1976年6月に施行された石油コンビナート等災害防止法（以下、石災法）に基づき特別防災区域として指定された京浜臨海地区のうち、鶴見川以西の横浜市域に事業所を有する会社の共同出資により1977年8月30日に(有)大黒神奈川共同防災センターとして設立されました。現在は、ENEOS(株)、大東通商(株)、日本埠頭倉庫(株)、横浜液化ガスターミナル(株)、保土谷化学工業(株)、鶴見倉庫(株)、内外輸送(株)、(株)築港、日産自動車(株)、(株)J-オイルミルズ、昭和電工(株)、三菱ケミカル(株)、(株)JERA（順不同）の全13事業所の出資をいただいています。

当センターは、石災法の定めるところにより、1978年7月と1979年7月の二段階に分けて消防自動車の防災資機材等および防災活動に従事する要員を配備し、常時その教育・訓練に努め、構成事業所の有事の際は公設消防機関ならびに各事業所の自衛防災組織と協力し、その災害の発生または拡大の防止に努めることを設立の目的とした共同防災組織（※）であります。2018年4月より、(株)KSP（本社：横浜市、総合警備業 <http://www.ksp-kokusai.co.jp/>）による運営形態となっています。

※ 一の石油コンビナート等特別防災区域において、二以上の事業所が共同して自衛防災組織の業務の一部を行うために設けられているのが、共同防災組織です。



弊社外観の様子



総務省での表彰式の様子



横浜市消防局での報告会の様子

「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」とは

石油コンビナート地域にある特定事業所の自衛防災組織の技能及び士気を向上させ、その地域の防災力強化を目的として、総務省消防庁が平成26年度から技能コンテストを行っています。

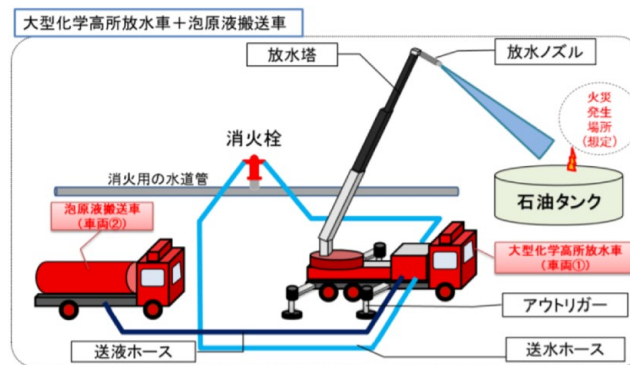
技能コンテスト概要

1. 訓練の想定

特定事業所内の石油タンクで火災が発生したことを想定し、自衛防災組織の保有する消防車両を活用した消火活動競技です。

2. 出場資格

全国の石油コンビナート等特別防災区域に設置されている自衛防災組織のうち、「大型化学高所放水車及び泡原液搬送車」又は「高所放水車及び化学消防車」を保有する自衛防災組織及び共同防災組織で、管轄する消防本部が推薦するもの。



3. 競技要領 (大型化学高所放水車及び泡原液搬送車)

指揮 中隊長

大型化学高所放水車小隊 小隊長、機関員、1番員、2番員

泡原液搬送車小隊 小隊長、機関員の計7名による大型化学高所放水車及び泡原液搬送車を使用した競技

4. 予選の実施

予選は廃止 (新型コロナウイルス感染拡大防止の為)

5. 現地審査の実施

令和3年度は全国から32組織が出場

6. 審査

消防庁特殊災害室の審査員2名が現地確認を行い、撮影したビデオをもとに審査

7. 横浜市出場隊

横浜市区域3隊での輪番制

技能コンテストへの取り組みについて

「環境の確立」

技能コンテスト参加にあたり、その環境を整えなければなりません。

現地審査・訓練の会場提供先、給水栓の使用、安全管理、訓練指導、時間、シフト等です。

これには横浜市消防局のご支援や構成事業所各社のご理解、弊社隊員の協力を得られることにより実現できました。

「連覇へ」

弊社は3年に一度、この技能コンテストに参加させていただいております。過去の出場と実績は以下のとおり。(第1回は(有)大黒神奈川共同防災センターで出場)

- ・第1回 平成26年度 優秀賞 (総務大臣賞) 出場33組織
- ・第5回 平成30年度 最優秀賞(総務大臣賞) 出場42組織

過去二回出場し、幸運にも優秀賞、最優秀賞と二度の総務大臣賞を受賞させて頂きました。

今回も目指すところは最優秀賞（総務大臣賞）受賞であるのはもちろんなのですが、出場したすべてが総務大臣賞であるという組織、さらに、最優秀賞を連覇（参加していない年を除く）している組織はいないということで、私たちは「連覇」を目標として様々な課題に取り組んでいきました。

前回の出場は、40歳代の隊員が中心の選抜でした。しかし、今回は前回出場していない50歳代の隊員を中心に出場しました。連覇を目指すのに何故、前回の選手で臨まないのか？

これには、過去の技能コンテストにおいて、横浜市消防局の指導により、選手一人一人が飛躍的に成長させて頂いたことから、石油コンビナート等特別防災区域での活動や操作の安全性・確実性・迅速性、思考、判断、技術の応用など、すべての隊員がその知識や経験を体得することが出来れば、日頃からお世話になっている構成事業所各社の皆様の安全・安心につながると考えたためです。

「心・技・体」

しかし連覇とは、言葉でいうほど簡単なものではありません。そのためにまず始めたのは、徹底した基礎訓練、そのあくなき反復と探求です。地味な基礎訓練ほど大変ですが、とても大切なことと考えています。弊社では全員が機関員、基本的なこと技術的なことは出来て当たり前。そういった環境で、互いを意識し、人の何倍も努力をすること。互いを尊重し、助け合っていくこと。そしてなによりも、どんな困難にも負けない、あきらめない心の持ち方が重要であること。また、体力錬成は勿論、新型コロナウイルス感染防止、熱中症対策なども正しく理解し、対策することで体調管理にも留意しました。これらを管理者に言われてやるのではなく、選手一人一人が自発的に行ってきました。

「訓練方針と取り組み」

横浜市消防局のご指導は、(株)JERA横浜火力発電所の敷地をお借りして、8月下旬から2時間を12回、現場での口頭指導とその後、動画で一人一人の動きをメールで指導して頂くもので、それは大変なご苦勞であったと思います。（通し1本10分×4台のカメラ×7名分×通し2本）

内容は実行から修正、元に戻したり、修正したりと、それぞれの意見を聞きながら試行錯誤の連続で、訓練指導者と選手に互いの信頼関係がなければ成立しません。

1本を大切に。「訓練は災害のように、災害は訓練のように。」集中力は心身ともに疲弊させるので、ヒューマンエラーに気を配り、無理はしないさせない、事故やケガなどが無いように、チームで呼吸を合わせました。

「日本一のチームとは」

日頃から隊員各位には段取り八分を心掛けさせています。どのような事も事前の準備とその意識で勝負は決する。事前の準備とは車両や資機材など訓練の準備だけでなく、どんな小さな事柄にも気を配ることができる、心に余裕を持った隊員の育成を目指しています。

今回は「日本一のチーム・日本一の隊員とはどんな人たちなのだろう？」との問いに各々が考え、行動することで、プライベートにおいても意識して過ごすようになりました。

「感謝」

第8回 令和3年度 最優秀賞（総務大臣賞）受賞 出場32組織

皆様からの多大なるご支援を賜り、この度、栄えある最優秀賞（総務大臣賞）受賞の連覇（参加していない年を除く）を達成し、出場したすべての技能コンテストで総務大臣賞を受賞することができました。心より厚く御礼申し上げます。

横浜市消防局の皆様、(株)JERA横浜火力発電所発電運営グループの皆様には毎回の訓練と現地審査にご尽力いただきましたこと、感謝の念に堪えません。本当にありがとうございました。

このたび得た経験は、弊社にとってかけがえのない財産となりました。今後これにも増して石油コンビナート等特別防災区域の防災の要となり得るように、さらに努力・精進して参ります。





「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」について

消防庁特殊災害室

1 はじめに

石油コンビナートで発生する事故は、危険物又は有毒ガスの漏えいや大規模な爆発を伴う火災など、甚大な被害に拡大するおそれがあることから、石油コンビナート等特別防災区域の特定事業所には、防災要員及び消防車両等を備えた自衛防災組織又は共同防災組織（以下「自衛防災組織等」という。）の設置が義務づけられています。

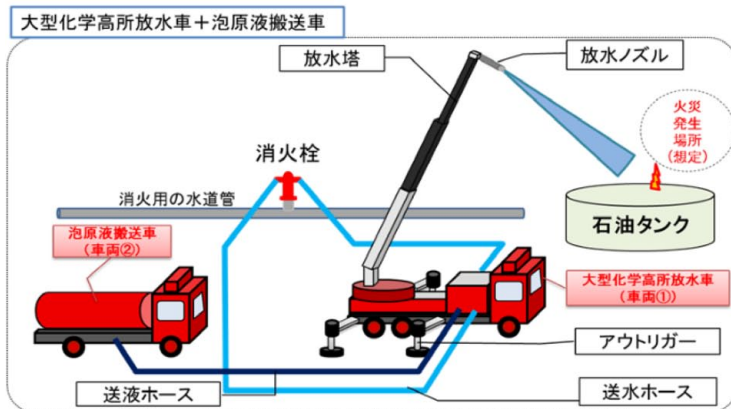
自衛防災組織等は特定事業所の防災体制の確立に極めて重要な役割を担っていることから、消防庁では、自衛防災組織等の防災要員の技能及び士気の向上を図り、防災体制を充実強化することを目的とした「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト」（以下「コンテスト」という。）を平成26年度から実施しています。

なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を踏まえ、昨年度から予選の廃止を行っています。

2 コンテストの概要

(1) 競技内容

特定事業所内の石油タンクで火災が発生したという想定で、自衛防災組織等が保有する消防車両を活用して消火活動を行い、その活動の安全性、確実性、迅速性などを評価することとしています。



(2) 出場資格

全国の特定事業所に設置されている自衛防災組織等のうち、「大型化学高所放水車及び泡原液搬送車」又は「高所放水車（大型化学高所放水車、大型高所放水車又は普通高所放水車をいう。）及び化学消防車（大型化学消防車又は甲種普通化学消防車をいう。）」を保有する自衛防災組織等を対象にしており、出場する条件として、管轄する消防本部からの推薦を必要としています。

(3) 審査

令和3年7月1日付けで出場組織を募集したところ29消防本部を通じて32組織の応募がありました。今年度は9月上旬から10月下旬にかけて消防庁職員が現地審査を実施し、その後、提出された競技映像を用いビデオ審査を行いました。

3 受賞組織の決定

審査結果を踏まえ、11月22日に消防庁長官を委員長とする審査・表彰委員会を開催し最優秀賞（1組織）、優秀賞（4組織）、奨励賞（14組織）、特別賞（1組織）を決定しました。

今年度新たに創設した特別賞は、今まで表彰履歴のない組織の中で技能が優秀である組織を対象としています。



コンテスト競技中の風景

受賞組織及び管轄消防本部一覧

最優秀賞（1組織）

受賞組織名	管轄消防本部
株式会社K S P大黒神奈川共同防災センター	横浜市消防局

優秀賞（4組織）

受賞組織名	管轄消防本部
浮島共同防災協議会	川崎市消防局
鹿島東部コンビナート共同防災組織 共同鹿石隊	鹿島地方事務組合消防本部
E N E O S 喜入基地自衛防災組織	鹿児島市消防局
関西国際空港航空機給油施設自衛防災組織	泉州南広域消防本部

奨励賞（14組織）

受賞組織名	管轄消防本部
秋田国家石油備蓄基地自衛防災組織	男鹿地区消防一部事務組合消防本部
仙台地区共同防災運営協議会	塩釜地区消防事務組合消防本部
四日市臨海地区特別防災区域共同防災組織（昭四石隊）	四日市市消防本部
新潟西港地区共同防災協議会	新潟市消防局
秋田地区石油コンビナート等特別防災区域協議会	秋田市消防本部
新潟東港西地区共同防災協議会	新潟市消防局
J F E スチール株式会社西日本製鉄所自衛消防隊	福山地区消防組合
三井化学株式会社大阪工場自衛防災組織	堺市消防局

大阪北港地区共同防災組合	大阪市消防局
福井国家石油備蓄基地自衛防災組織	福井市消防局
石油備蓄基地共同防災組織「北海道石油共同備蓄隊」	胆振東部消防組合消防本部
出光共同防災組織	周南市消防本部
富山地区共同防災協議会	富山市消防局
むつ小川原石油備蓄株式会社自衛防災組織	北部上北広域事務組合消防本部

特別賞（1組織）

受賞組織名	管轄消防本部
日本製鉄戸畑構内共同防災組織	北九州市消防局

4 表彰式

令和3年12月17日（金）に、合同庁舎第二号館（総務省）地下2階講堂（東京都千代田区霞が関二丁目1番2号）において、表彰式を開催し、内藤消防庁長官から最優秀賞、優秀賞を受賞した5組織に表彰状と記念品を授与しました。



株式会社KSP大黒神奈川共同防災センター



受賞組織との記念撮影

5 コンテストの結果から

(1) 競技映像について

最優秀賞及び優秀賞を受賞した5組織の競技映像を、消防庁動画チャンネル（YouTube）で公開しています。指揮命令系統のしっかりとした組織的な活動や、洗練された規律ある活動をご覧頂き、競技に向けた訓練だけでなく、様々な場面で活用して頂きたいと思います。

☆消防庁動画チャンネル（YouTube）

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLUrGKEwru-bAR8rrBtd90IrOBFoKBQHEX>

(2) 主な減点行為について

今年度の主な減点行為を競技要領順にまとめました。

行動審査項目	減点行為	該当項目
⑤士気・規律	号令等の誤り	競技要領 3 (2)
コメント	中隊長が進行者の移動前に「気をつけ」の号令をかけている。進行者が定位に移動を始めたなら号令をかけること。 また、基本の姿勢をとってから「気をつけ」の号令をかけること。	

行動審査項目	減点行為	該当項目
③中隊長を中心とした連携活動	隊長指揮位置不適	競技要領 3 (6) ア
コメント	中隊長が「おさめ」の下命を指揮位置まで移動し行っていない。	

行動審査項目	減点行為	該当項目
①各隊員等の安全管理	その他の安全管理不備	競技要領 4 (1) オ 4 (4) ウ
コメント	機関員の専任部分である「バルブ（コック）の開閉操作」等を機関員以外の隊長・隊員が行った場合は、機関員自身が「バルブ（コック）開閉状態の確認」等の安全管理を行わなければならない。 なお、機関員が一時的に車両を離れているだけでは安全管理不備とはならない。	

行動審査項目	減点行為	該当項目
④使用機械器具の精通及び愛護	器具の踏み付け、蹴飛ばし ホース取扱い不適 ドアの開閉時、安全な降車	競技要領 4 (5) ウ 4 (5) オ
コメント	ホースや金具の踏み付け、蹴飛ばし及び延長中のホース飛び越えを行ってはならない。ホースを後方に展張する際は、事前に後方確認を行うこと。また、安全な乗降車に伴うドアの開閉操作を慎重に行うこと。	

行動審査項目	減点行為	該当項目
②正確で確実な操作及び活動	ノズルを下方に向けて放水を開始していない。 ノズルを想定火点に向けていない。	競技要領 4 (5) キ (ウ)
コメント	機関員は、「放水はじめ」を受命したら、ノズルを下方にむけたままの状態 で放水を開始すること。継続的な放水かつ放水量2,000ℓ/min を確認したら 約5秒間放水を保持した後、ノズルを想定火点に向けて放水すること。	

6 コンテストを終えて

コンテストの審査を通じ、その競技レベルの高さに感銘を受けました。規律ある洗練された活動は、参加した全ての自衛防災組織等の皆様方が、業務の傍ら、限られた時間の中で厳しい訓練を実施してきた成果であると感じました。

本コンテストの趣旨は、防災体制の充実強化にあり、出場した全ての組織の皆様方が切磋琢磨することにより、知識、技術及び団結力が強化され、自衛防災力が飛躍的に向上したものと思います。

今後も強化された自衛防災組織力を維持し、万一の災害時には強靱なコンビナート防災体制の軸として活躍されることをご期待しています。

最後となりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況をふまえ、予選の廃止等スケジュールの変更の中、コンテスト開催にご協力頂いた特定事業所、都道府県及び消防本部の皆様方に感謝申し上げます。次年度以降も、より多くの自衛防災組織等にご参加頂けるよう取り組んでいきます。



一般公開のお知らせ

消防研究センター、消防大学校、日本消防検定協会、一般財団法人 消防防災科学センター

消防研究センター、消防大学校、日本消防検定協会及び一般財団法人消防防災科学センターでは、令和4年度の科学技術週間にあたり、研究開発や消防用機械器具の紹介等を目的として一般公開を行います。

一般公開にあたっては、令和3年度に初めて行ったオンライン開催を令和4年度も実施し、併せて施設の公開や実演等（実開催）も行う予定です。

なお、これらの予定については新型コロナウイルス感染症対策等のため、変更・中止となる可能性がありますので、消防研究センターホームページにて最新情報のご確認をお願いいたします。

1 オンライン開催（予定）

(1) 日時

令和4年4月15日（金）10：00
～4月25日（月）16：00

(2) 開催ページ（アクセスURL）

消防研究センターホームページ
<http://nrifd.fdma.go.jp/>



2 実開催（実開催が可能な場合の予定）

(1) 日時

令和4年4月22日（金）
10：00～16：00（入場無料）

(2) 場所（受付：消防研究センター本館）

- ア 消防研究センター、消防大学校
（東京都調布市深大寺東町4-35-3）
 - イ 日本消防検定協会
（東京都調布市深大寺東町4-35-16）
- ※ア及びイは同一敷地内にあります。

(3) 実開催で予定している公開内容

【消防研究センター、消防大学校】

軽油の燃焼実験、災害時の消防力・消防活動能力向上に関する研究開発の紹介、石油タンクの安全性に関する研究開発の紹介、原因調査室の業務紹介、消防車両の展示等

【日本消防検定協会】

住宅用消火器の消火実演、消火器の操作体験、住宅用防災警報器の実演、屋内消火栓の操作説明及び操作体験並びに各種消防用機械器具等の展示

【消防防災科学センター】

避難所HUG（風水害版）の実演、令和3年度中に起きた災害の被害や災害対応の状況を写真などで紹介

(4) 交通機関

- ア JR中央線吉祥寺駅南口から バス約20分
6番乗り場：「深大寺」「野ヶ谷」「調布駅北口」行き〔消防大学前〕下車
- イ JR中央線三鷹駅南口から バス約20分
8番乗り場：「野ヶ谷」行き〔消防大学前〕下車
7番乗り場：「晃華学園東」行き〔中原三丁目〕下車 徒歩5分
- ウ 京王線調布駅北口から バス約18分
11番乗り場：「杏林大学病院」行き〔中原三丁目〕下車 徒歩5分

3 問い合わせ先

- 消防研究センター 研究企画室
電話 0422-44-8331 (代表) ホームページ <http://nrifd.fdma.go.jp/>
- 消防大学校 教務部
電話 0422-46-1712 (直通) ホームページ <http://fdmc.fdma.go.jp/>
- 日本消防検定協会 企画研究部情報管理課
電話 0422-44-7471 (代表) ホームページ <http://www.ifeii.or.jp/>
- 一般財団法人消防防災科学センター 総務部
電話 0422-49-1113 (代表) ホームページ <https://www.isad.or.jp/>

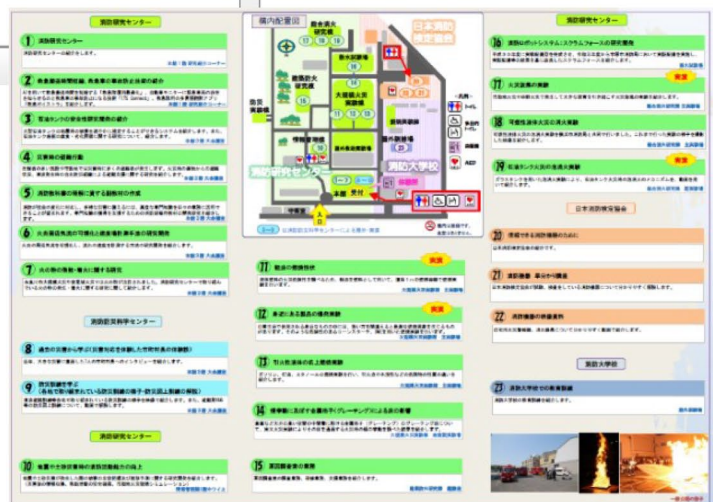
前回のオンライン開催状況



<http://nrifd.fdma.go.jp/>



オンライン開催プログラム



これまでの実開催の様子



軽油の燃焼実験
【消防研究センター】



住宅用消火器による天ぷら油火災の消火実演
【日本消防検定協会】



避難所HUG(風水害版)
【(一財) 消防防災科学センター】



消防車両等の展示
【消防大学校】

自信と過信



by makiko Kuzukubo

自信と過信は紙一重。
あなたの自信はどちらでしょうか?